

祭事暦

1月1日 零時 八方除祭
 引き続き 旦祈禱祭
 午前6時 元歳旦祭
 引き続き 末歳旦祭
 1月2日 午後8時 追儺祭
 1月3日 午前8時 元始祭
 1月8日 午前10時 武佐弓祭
 1月20日 午前8時30分 月次祭



発行所
 寒川神社社務所

〒253-0195
 神奈川県
 高座郡寒川町宮山3916
 電話 代表0467(75)0004

編集者 水谷智賢
 印刷所 樹さんこうどう



鎮守の森

あけましておめでとございます。昨年は神社の内外で、一区切りの事が多くありました。第一は、天皇陛下におかれましては御即位二十年をお迎えになられ、各地で奉祝行事がおこなわれましたことは誠に悦ばしい事と存じ上げます。第二は、政局において、長年政権を把握していましたが自由民主党から、民主党に政権が交代致しました。これを節目とし平成二十二年の新しい年が一段と躍進できるであろうと考えられます。神社では、裏山の神嶽山の諸工事が終了し、大勢の氏子崇敬者の方々が憩いの場としてご参拝になられ同時に資料館にも足を運ばれています。資料館では神社の歴史が何え、理解しやすい様に年代順に資料が並べてありますので、ご理解を深めていただきますと共に、八方除の御信仰が更に深まることと存じ上げます。文化財としては武田信玄奉納と伝わる「六十二間筋兜」も展示されていますので是非とも足を運んでいただきたいものです。今を生きる我々は歴史の有様を今の世に語りかけ、目の前で再現し次の時代に残して行く努力をしなくてはならず、それが伝統を生み出し、文化となつて歴史を作り出す源となつていくのではないかと思います。皇紀二六七〇年、平成二十二年が走り出しました。神前に額づき今年こそ昨年のもやもやを吹き払い、明るい希望に満ちた一年になることを、氏子・崇敬者の皆様と共に心より祈りたいものです。(目)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

平成二十二年 年頭のご挨拶

宮司 利根康教



新年明けまして

おめでとうございます

新春を寿ぎ、謹んで御皇室の弥栄と、国家の安泰、氏子崇敬者皆様方のご隆昌とご多幸を心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、全国各地で天皇陛下奉祝行事が開催され国民挙ってお祝い申し上げることができ、誠に目出度き慶賀の年となりました。また神宮では宇治橋も完成渡り初め式が執り行われ、平成二十五年の式年遷宮完遂を心より願っております。

寒川神社におきましては、昭和四十五年より開催致しております相模薪能も四十回を迎え、四十年のあゆみ展、記念式典等を執り行いました。また御本殿御造営竣工十周年記念事業として、「創ろつ平成の文化財」

をテーマに平成十七年七月より着手いたしました御本殿周辺整備工事も四カ年の歳月を経て、去る六月十七日の竣工奉告祭にてすべてが無事終了し、和の心をもつてご参拝の方々をお迎えいたしております。

寒川大明神の御神託

益人の、正しき直き心を元として、天つ神のみ心になかなへ直き心は天地に通じ、物として物ならずと云うことなし、草も木も直き心ぞ、世の宝として宝なり。

「後鳥羽院勅撰・和論語」

相模國一之宮寒川神社は、寒川大明神の広大無辺な御神徳著しく、關八州方除け総鎮護、唯一無二の八方除守護神として地相・家相・方位・日柄等に由来するすべての悪事災難を払い除く御靈験はあらたか、古来より全国の方々に崇敬されております。

本年も元旦零時の八方除祭に引き続き元旦祈禱祭を執行し、午前六時の歳旦祭にて皇室の弥栄と年頭の感謝を捧げ、日本國の隆昌を祈念致しました。

平成二十二年は皇紀二、六七〇年にあたり庚寅年、八白土星、納音は松の木になります。「庚寅」は勢いもありますが波乱もあります。「八白土星」は改革、変化、新旧の交代と蓄積を意味しています。過去の八白土星を見ても平成四年は自民党から細川政権へ移行の筋道をつけた日本新党の結成があり、十三年はアメリカ同時多発テロなどが起こっています。「松柏木」の意味は、松と柏はいずれも長命の常緑樹で長寿にして暗雲を除くとなり、節義ある風格を示します。

本年ご参拝の皆様方をお迎えいたす干支ねぶたは「開運虎視躬行」の題名のもと、「虎視眈々」・「実践躬行」と云われるように、未曾有の経済混乱が世界中を駆け回り世情が不安定な中、マスコミの報道等に付和雷同じ騒ぎ振り回されることなく時代の流れに対し虎のような鋭い眼差しで物事の是非をしっかりと見極め、冷静にして創造的な考えを持ち次世代に向け精神的な充実を図り強靱な中にも博愛の精神にて自らの信じる道を着実に進み、運氣を上げご健勝で稔り多き年をおくられる様にお願いいたしました。

氏子崇敬者の皆様方にとりまして飛躍の年となりますよう心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

頌春



宗教法人寒川神社

責任役員

横溝 隆義 市川 元久

大川 静男 関根 晃

藤沢 賢一 伊藤 留治

小林 亮 山田 文夫

飯田 誠 根本 康明

河西 大吉

参 与 青木 治三 高橋 春吉

金子 昭

総代長 杉崎 孝行

副総代長 杉山 英昭

総 代 正木 武 金子 泰夫

北野 武 楠原 敏彦

長田 佳史 高谷 仁

福岡 清敬 木村 貴

山岡 敬市 川部 武一

高浜 章夫 米山 菊雄

内田 哲広 笠石 立志

濱田 敏美



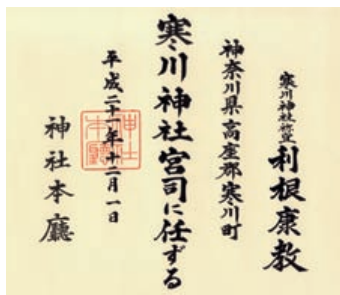
利根康教氏 宮司就任

平成二十一年十二月一日
 付けを以って利根康教氏
 (前宮司代務者) は、神社
 本庁より寒川神社宮司とし
 て任命されました。去る十
 二月十日神社本庁にて宮司
 任命辞令交付式があり参列
 宮内庁へ就任の記帳のため
 参内し、翌日には当神社の
 御神前にて奉告祭を執り行
 い就任いたしました。

利根宮司は、昭和四十七
 年國學院大學を卒業され当
 神社に奉職 以来瀧本宮司・
 多田宮司のもと神明奉仕に
 努められ、御本殿を始めと



する平成の御造営事業には
 大いに貢献されるなど豊富
 な経験を重ねられています。
 当神社の伝統を受け継がれ
 御神徳の発揚と御社頭の隆
 昌に更なるご活躍が期待さ
 れています。



天長祭齋行

藤田善三氏 講演

十二月二十三日(水) 午
 前十時、天皇陛下のお誕生
 日を寿ぎ、ご長寿と皇室の
 弥栄、国家の繁栄、氏子崇
 敬者の隆昌を祈念する天長
 祭が厳肅に齋行されました。
 ご参列の皆様方は、陛下
 の御聖誕を心よりお祝い申
 し上げ、真心を込めて御神
 前に玉串を捧げました。
 祭典終了後は参集殿にお



きまして、記念講演が行わ
 れ河西工業株式会社藤田善三
 氏が、「危うい日本の将来
 との題目にて、国民一人一



人が日本を想い、責任を持つ
 て行動する事が、日本の国
 を守り、会社の発展に繋が
 る。と云う藤田氏の実践と
 経験に基づいた後継者育成
 指導法を熱く語られました。

今日の祭事

八方除祭
 元旦祈禱祭
 歳旦祭

一月一日(金)

午前零時、新年の幕開け
 を告げる大太鼓が境内に鳴
 り響く中、八方除の御神威
 の更なる発揚を願う「八方
 除祭」が行われます。続け
 て「元旦祈禱祭」、同六時
 には「歳旦祭」が齋行され
 ます。

追儺祭

一月二日(土)

午後八時、邪気災厄を被
 い除く「追儺祭」が、境内
 の灯火を消した暗闇の中で
 執行されます。

祭典終了後には、御神前
 に備えられた弓矢が魔除け
 のお守りとして、御参集の
 皆様に配られます。

元始祭

一月三日(日)

年の初めにあたり、皇位
 の大本と由来を祝した祭典

武佐弓祭

一月八日(金)

午前十時、本殿での祭典
 の後、内庭齋場に設けられ
 た古式の的に、禰宜二名が
 交互に三度矢を射り、その
 当り具合にて今年の吉凶が
 占われます。

野口聡一さん

宇宙滞在の安全を祈る



地元湘南のヒーロー、野口聡一宇宙飛行士は、去る十二月二十一日(月)、二度目となる宇宙の舞台へと飛び立ちました。

今回のミッションは、国際宇宙ステーションの運用組立て、日本実験棟「きぼう」での宇宙環境利用実験で、五月迄、約半年に亘る長期宇宙滞在となります。

野口さんが巣立ったBS茅ヶ崎第二団では、影ながらも応援しようと脇本団委員長が寒川神社へ参拝し無事安全を祈願致しました。当神社ではBS寒川第二

昭和53年 日本ジャンボリーにて利根宮司と野口さん



団を育成しており、利根宮司と野口さんは日本ジャンボリーで共にプログラムを達成した仲で、早速、大明神にお取次ぎし、人類の可能性を広げる大事業が成功し、無事帰還出来る様祈念申し上げました。宇宙で神札を飾る事は出来ませんが、大明神の広大無辺なる御稜威は、野口さんを見守り続ける事でしよう。

◆青少年活動だより

BS寒川第二団

— 神道章授与式 —

当団ベンチャー隊(高校生部)山田智弘君は、これまでの奉仕活動が認められ、神社本庁より認定を受け日本ボーイスカウト連盟より栄えある「神道章」が贈られることになり、去る十二月十三日(日)に授与式が行われました。

今後山田スカウトには敬神崇祖の念を心に抱き神社スカウトとしての自覚と誇りをもって、日々の活動に励まれる事を期待します。



節分祭

豆撒き、神事奉仕のご案内



「節分」は本来、季節の変わり目を指す言葉でしたが、立春が一年の始まりとする考えから、特にこの節目を「節分」というようになりました。

古来より季節の変わり目には災厄が生じるといわれ宮中において「もこの日、様々な災いの根元とされる邪気を追い掃う追儺行事が行われていました。」



当神社におきましても一年間の邪気災厄を祓う節分祭を執り行いますので「豆撒き神事」をご奉仕頂く年男・年女の皆様を左記により募集致します。

記

◆奉仕日時

平成二十二年二月三日(水)

午前十一時：寒川町内の方

午後二時：寒川町外の方

◆初穂料 金壹万円也

◆申し込み期日

平成二十二年一月二十日迄

連載

遷宮講座



國學院大學
神道文化学部教授
神道学博士
なかよし まさゆき

中西正幸

第九回 御用材と御敷地

遷宮工事を取り進める山田工作場の建物は、大幅に増改築がなされている。既に乾燥棟・工務所・休養所は完成しており、現在は工作棟・造材棟が建築中である。しかも屋根上にソーラー



乾燥棟

が設置され、太陽光の発電能力を持っていて、七キロワットで工作場の需要をまかない、五〇キロワットで齋館・神楽殿・警衛部・せんぐう館（今回遷宮の記念事業である展示施設）とい



乾燥中の御用材

う外宮全体の必要電力に充当されると聞いた。宮大工は現在二〇名ほどであるが、式年造営

庁で二十二・三年にかけて全国的に募集して、およそ七〇名前後に及ぶことであろう。それを八班に分けて正殿・宝殿・御垣・鳥居、さらに諸別宮などの造営を担当してゆくという。

十八年四月に「木造始祭」は、木造りを開始するにあたり、屋船大神に工事の安全をいのるもので、「手斧始」とも称されてきた。素襖・烏帽子に掛明衣も清々しい小工が、鋸で御木の本末を切落とし、御木に墨縄を打つ。次いで技師が進んで手斧を振るうものである。この祭儀に象徴されるように、去る十八・十九年に「お木曳」された御用材は、工作場内の貯木池に蓄えられ、水中乾燥をさせたあと、墨付・製材・乾燥・木造の工程をたどって処理される。正宮



御萱を束ねる

の守護をいただき、敷地の草木を刈って地均しを行なうものである。新宮の御敷地において、まさに確かな第一歩が刻まれたこととなる。

地祭」がとり行なわれる。一般には地鎮祭と称されている。心御柱の覆屋を中心にして周囲に五色の幣串を廻らして、大宮処に坐します神霊

分をほぼ終り、諸別宮分に取り掛かる段階であるという。屋根に葺きあげる御萱は、特別に育成した萱山から、平成十七年より遷宮前までの期間に奉採される。それを萱工たちが九工程に分かれて、八カマを取って歪みをなおし、束ねて備蓄してゆく。また屋根の四隅に取り付ける蛇腹なども、次第に調整してゆくという。

一方、正殿に並んで、同様の御敷地が用意されており、心御柱の覆屋を中心として広大な空間が広がっている。その新御敷地における最初の祭儀として、「鎮

寒川病院だより

☎0467(75)6680 寒川町宮山193
http://www.byouin.samukawa-jinja.or.jp/



木勢由利子医師よりのご挨拶



(宗)寒川神社 寒川病院
眼科医長
木勢 由利子

私は、京都府出身で岐阜大学医学部を卒業後、京都府立医科大学大学院に進学し学位を修め、卒業後は京都府立医科大学附属病院や関連病院に勤務してまいりました。

寒川病院には、東海大学の先生のご紹介により入職し、平成八年より勤務しています。現在では寒川病院の医師の中で一番勤務年数が長くなりました。寒川町はのどかで穏やかな方が多く、とても過ごしやすい環境だと感じております。私は眼科専門医としての経験を活かして、多くの患者様の白内障手術も行ってきました。

一人ひとりの患者様に対しては常に誠実に真摯な気持ちで診療を行うよう心がけています。また、緑内障の早期発見に努め、手遅れや失明する人がいない様に願っています。緑内障は自覚症状が出にくいので、早期発見のためにぜひ健康診断を受診してください。見つかれば進行を遅らせることができます。

診療日

	月	火	水	木	金	土
午前						
午後						

* 印...木勢医師担当外来
印...眼科外来
お電話にてご確認の上、ご来院下さい。

医療講演会のご案内

- と き 1月27日(水) 午後1時～2時
- と ころ 寒川神社参集殿
※入場無料(申込み不要)
ご来場をお待ちしております。
- 内 容 「急に耳が聞こえなくなる時」
- 講 師 耳鼻咽喉科医長 大上 麻由里
- お問合せ 電話 0467(75)6680 (寒川病院)

趣味は旅行や読書です。一年に一回は家族で旅行に出かけます。読書はミステリーが大好きです。家庭に戻れば中学二年生の娘と小学五年生の息子を持つ母として、仕事と家事を両立させながら働いてきました。

体力的に無理がなく、手術も含めずっとこの仕事を続けたかったので眼科医を志しました。

診療していて嬉しいことは、白内障の手術をした患者さん等が見える喜びを語ってくださる時です。

眼でお悩みやお困りの方がいらっしやいましたら、どうぞ寒川病院の眼科を受診してください。心の触れ合いを大切に、信頼される医師として、地域医療に貢献していきたいと願っています。

人事

退職

▲寒川病院V
看 護 師 村上 晶子
願いに依り職を免ずる
平成二十一年十一月三十日

看 護 師

北爪 恵子
飯塚加奈子
谷田部里美
願いに依り職を免ずる
平成二十一年十二月三十一日

伊勢神宮・桜山八幡宮 参拝旅行のご案内

- ◎期 日：平成22年3月7日(日)～3月9日(火)
- ◎募集人員：120名 (定員になり次第締め切ります。) バス3台
- ◎参加費：45,000円 交通費・宿泊代・食事代・傷害保険料 伊勢神宮御神楽料・御神酒拝観等一切を含みます。

日次	月日(曜)	行 程	宿泊地
1	3/7 (日)	8:00～8:30 各地より→寒川神社→浜松市内(昼食) 15:30～16:30 伊勢神宮外宮(自由参拝)→鳥羽【宿泊】 17:10頃	鳥羽シーサイドホテル
2	3/8 (月)	8:00 鳥羽→伊勢神宮【正式参拝】おかげ横丁(買物) 12:30～13:15 亀山市内(昼食)→高山【宿泊】 16:50頃	高山グリーンホテル
3	3/9 (火)	8:00 高山→桜山八幡宮【正式参拝】・朝市等市内散策→ 11:00～12:40 白川郷(散策・昼食)→寒川神社及び各地へ 19:40頃	

◎お申込み・お問合わせは 寒川神社 0467(75)0004へ

御本殿御造営竣工十周年記念事業

御本殿周辺整備事業奉賛者芳名

左記の方々より赤誠溢れるご奉賛を賜りました。
誌上より厚く御礼申し上げます。

- 【平成二十一年十一月奉賛者】(順不同・敬称略)
- 二万円 (株)フィルツ都市建築設計 東京都町田市
- 野村喜重郎 茅ヶ崎市富士見町
- 藤岡秀夫 熊本県熊本市

冬川俳壇

花^{はな}柵^{さく}厠^{かみ}に古き手水鉢
 禿^{かぶ}び冪^ひ置^おかれしままに花柵
 調理場の鍋伏せ並^{なら}ぶ冬灯^{ふゆとう}
 患者^{あやふし}食^く手^てつかず残り冬燈
 水^{みづ}少し残^{のこ}る冬田^{ふゆのり}の夕茜
 いつの間にこぼしてあたり花柵
 生姜湯^{しょうじやう}の派^は手に噫^{あは}んで赤子泣^{あかこな}く
 山茶花^{さんぢあな}や崩^{くづ}れかけてる牛舎^{うしや}あり
 広告^{こうこく}に目を走^はらせる十二月
 聴^きえくる受話器^{うわがし}の咳^{せき}に顔^{かほ}そむけ
 近^{ちか}寄りて花柵^{はなさく}の匂^{にお}ひかな
 花柵^{はなさく}高層^{こうじやう}ビル^{ビル}の谷間^{やま}にも
 出番^{しゅつぱん}待つ餅^{もち}臼^{うす}土間^{どま}に十二月
 四十雀^{しじゆ}飛び来て見^みつけ花柵^{はなさく}
 只^{ただ}管^{くだ}に散^ちる山茶花^{さんぢあな}に昼^{ひる}の月
 花屋^{はなや}にも縁起^{えんぎ}の花置^{はな置き}く十二月
 曇^{くもり}りのち雨^{あめ}の予報^{よほう}や花ハッ手
 神域^{かみ}に存在^{そんざい}示^しす三十三才
 花柵^{はなさく}屋号^{やごう}でタクシー乗^{のり}れるなり
 蜜柑^{みつだん}狩^{かり}どこから見^みても富士^{ふじ}は富士
 老人^{らうじん}が老人^{らうじん}を看^みる十二月

- 金指 月光
- 相原 白鶴
- 根岸 君子
- 飛石 槿花
- 芹沢 徳光
- 千葉 静香
- 露^{つゆ}てる子
- 菅沼^{すがぬま}つめの
- 菅谷 節子
- 岡田^{おかだ}風呂釜
- 岩田^{いわだ}美代子
- 山本 朝子
- 四^よツ車^{くるま}梢^{しほ}月
- 伊藤^{いとう} 公一
- 高橋^{たかはし}はるよし
- 菅沼 保幸
- 竹村^{たけむら}真砂美
- 松本^{まつもと}美智子
- 宮入 つる
- 原野 楽天
- 金子 つち



一月 手水舎奉掲

明治天皇御製

國民とおなじこころにいはいふかな
わが日の本の年のはじめを

相模詠草

土^{つち}にのみ拘^かりて来^きし八十八年^{はちじゅうはちじゅうはちねん}諸相^{しよさう}に疎^そきままに終^はるか
 虫^{むし}の声^{こゑ}月夜^{げつや}に照^てらされ何^{なに}処^{ところ}なりこころあたりか訪^{たず}う草^{くさ}の宿
 父^{ちち}母^{はは}の命^{いのち}のバトン^{ぱとん}子孫^{こそん}へと思^{おも}えば吾^{われ}も今日^{けふ}も生きぬく
 突然^{とつぜん}の豪雨^{ごうう}に戸^と迷^{まよ}い夕暮^{ゆふぐ}れの雨^{あめ}に濡^ぬれいる舗道^{ほどう}見^みている
 半^{はん}世紀^{せいき}に及^{およ}ぶ驕^{あや}りの政權^{せいけん}に民意^{みんい}はチエンジ^{ちえんじ}の鉄槌^{てつち}下^{くだ}す
 喜^き寿^{しゆ}超^こえし画友^{がう}集^あいし山伏^{さんぶつ}峠^{とう}筋^{すぢ}は還^{かへ}る鶯^{うす}の声^{こゑ}ひびけり
 からからと落^お葉^はの音^ねに耳^{みみ}すまし寒^{さむ}さくるよ囁^{ささ}きにきこえ
 漸^{おそ}くに肺^{はい}癌^{がん}手術^{じゆてい}後^{のち}五年^{ごねん}経^へぬ吾^{われ}が現^{いま}在^{ざい}八十五^{はちじゅうご}歳^{さい}の青春^{せいしゆん}
 野^の菊^{きく}咲^さく紫^{むらさ}告^つげし花^{はな}露^{つゆ}草^{くさ}も吾^{われ}洗^{せん}柿^{かき}食^くう秋^{あき}の実^みりよ
 『山のあなた』に幸^{さい}せ住^すむの情景^{けいけい}の身^み延^{のび}の山^{やま}に詩^し碑^ひ見^みて思^{おも}う
 彩^{さい}墨^{ぼく}に夫^{おつと}のえがきし鮎^{あや}の稚^{わか}魚^{いそ}しづかな趣^{おもむ}きやすらく
 入^い選^{せん}の俳句^{はいく}の嬉^{うれ}び知^しらせくる受話器^{うわがし}に姉^{あね}の声^{こゑ}は飛^とび出^です
 高^{たか}齢^{れい}の吾^{われ}にも出^で来るポラン^{ポラン}テイ^{テイ}ア幸^{さい}せ思^{おも}い喜^{よろこ}び励^むむ
 小^こ学^{がく}校^{こう}に机^き並^{なら}べし友^{とも}逆^{さか}きぬ引^ひきあげ船^{ふね}に共^{とも}に乘^{のり}りしに
 草^{くさ}の実^みをいっばいっつけし家猫^{けねこ}を叱^{しか}ればいふいとまた出^でてゆく
 何^{なに}時^{とき}の日^ひに野鳥^{のりやう}の運^うびくれたるか黄^{わう}の千両^{せんりやう}は庭^{にわ}を彩^{いろ}る
 風^{かぜ}となり光^{ひかり}となりて新年^{しんねん}の大空^{たいくう}涉^せるよきことあれな

- 宇田川^{うたがわ}時^{とき}子
- 浜田^{はまた} 寿^{しゆ}子
- 山口^{やまぐち} 幸^{さい}子
- 山根^{やまね}喜^き美^み代^{だい}
- 安藤^{やすどう} 慧^{えい}
- 鈴木^{すずき} 助^{すけ}晴^{はる}
- 川島^{かわしま}惠^{えい}美^み子^こ
- 吉田^{きちだ}マツ子
- 工藤^{こうどう} 光^{みつ}子
- 稲^{いな}畠^{はたけ} 治^ち江^え
- 三^{さん}留^{りゅう}とく子
- 天^{あま}利^り 春^{はる}枝^{えだ}
- 岡^{おか}元^{もと} 芳^{よし}子
- 出^で町^{まち} 安^{やす}子
- 斎^{さい}藤^{ふじ}くにお
- 亀^{かめ}山^{やま} 文^{ふみ}子
- 杉^{すぎ}本^{もと} 照^{てる}世^よ



表紙写真説明

干支^{かざし}ねぶた設置^{ていし}、ねぶた囃子^{はやし}
で気を込めるねぶた師^し達^{だち}。

編集後記

初^{はつ}詣^ぎ。引^ひいたおみくじは
大吉^{たき吉}、「何^{なに}事^{こと}も謙^{けん}虚^こな気^き持^{もち}ち

平成22庚寅年 厄年一覽表

性別	年齢	前厄	本厄	後厄	性別	年齢	前厄	本厄	後厄
男	25歳	昭和62年生	昭和61年生	昭和60年生	女	19歳	平成5年生	平成4年生	平成3年生
	42歳	昭和45年生	昭和44年生	昭和43年生		33歳	昭和54年生	昭和53年生	昭和52年生
	61歳	昭和26年生	昭和25年生	昭和24年生		37歳	昭和50年生	昭和49年生	昭和48年生

で望むことが肝心」と書いてある。運氣を下げない為の戒めの言葉。じっくり読めば納得がいくものばかり。